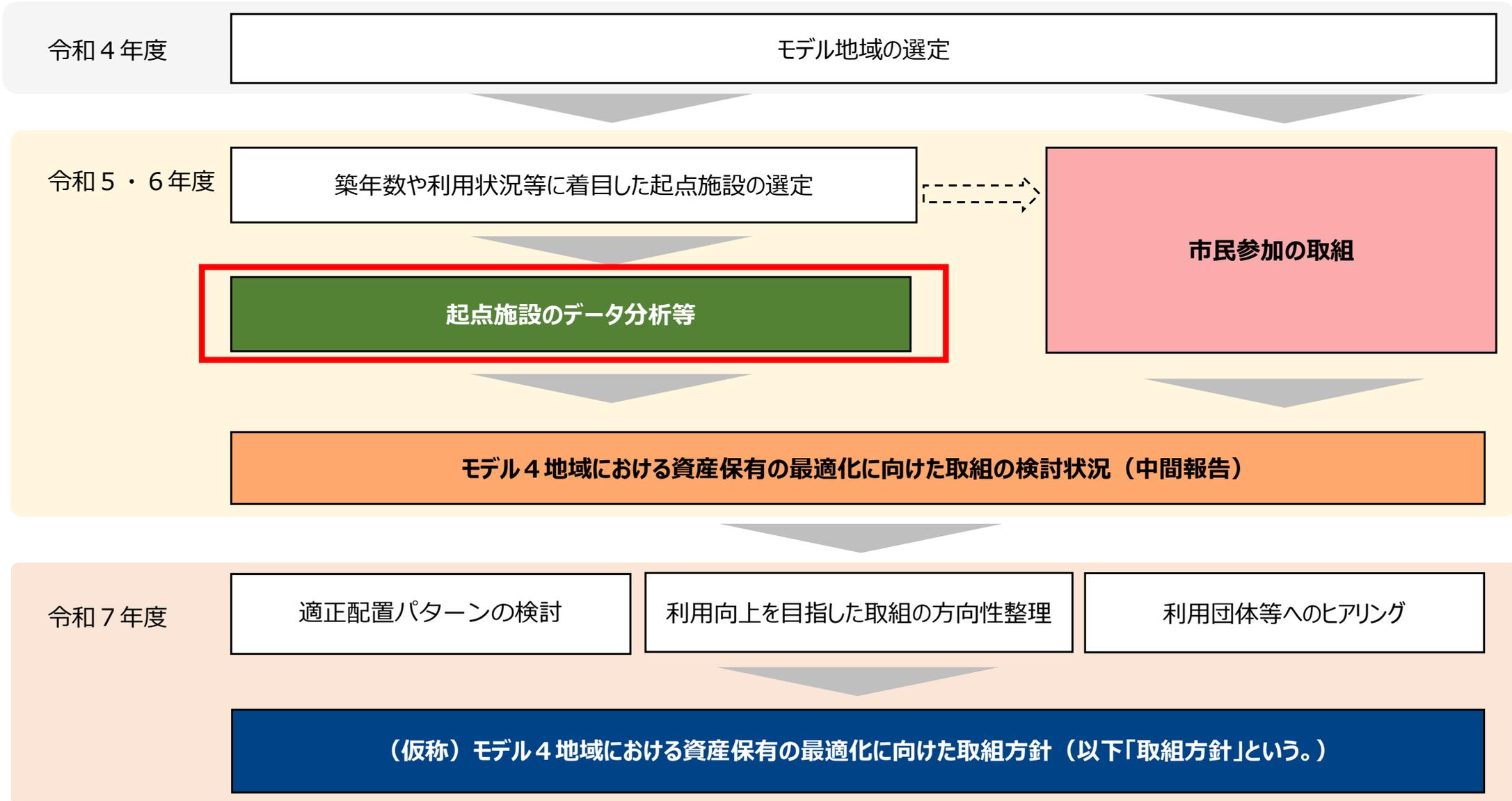


起点施設のデータ等分析について

取組フロー



起点施設の分類

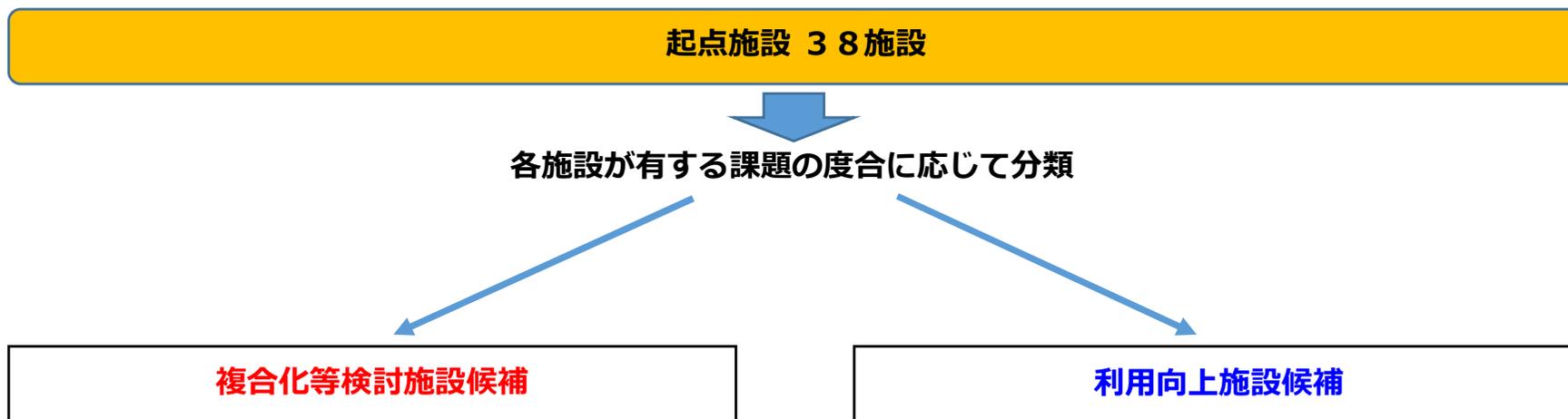
モデル地域の検討を進めるにあたり抽出した起点施設については、検討の初期段階として幅広く御意見をいただくため、全施設を対象とした選定基準を設定しておりましたが、具体の施設について検討を深めるためには、各施設の課題に応じた検討を行っていく必要があります。そのため、利用状況の分析や施設・機能のあり方検討の必要性の確認などを行い、その結果を踏まえ、各施設が有する課題の度合に応じて複合化等検討施設候補と利用向上施設候補に分類します。

【分類後の施設の定義】

複合化等検討施設候補：築年数が高く、施設の利用状況について一定の課題があるため、施設の複合化等の可能性について検討を行う施設

利用向上施設候補：一定の利用が見られる施設であるが、施設の使い方の工夫など、既存施設を活かしながら更なる利用向上の可能性について検討を行う施設

■イメージ図



分析・確認の考え方

各施設が有する課題の度合を測るため、以下の分析・確認を行います。

(利用状況に関する分析)

- 各施設で市民利用可能な部屋数や利用可能なコマ数など特性が異なることから、利用実態に則した分析を行うため、公共施設白書の、**部屋別の利用状況（利用コマ数）を基に分析し、低利用な部屋の割合が高い施設を抽出**します。
- なお、こども文化センターなど、複数の部屋を自由に利用できる施設については、部屋別の利用状況が把握できないため、施設全体を1部屋とみなし、**1㎡あたり利用者数（利用度）を基に分析し、低利用な施設を抽出**します。

分析内容	分析の考え方
部屋別の利用状況	<ul style="list-style-type: none">低利用な部屋数の割合が高いほど、施設を有効に活用できていないと考えられる。年間利用可能コマ数に対する年間利用コマ数の割合が33%未満（3分の1）のものを「低利用な部屋」とし、公共施設白書の「貸出しを行う部屋のデータ（部屋別の利用状況データ※R3・4の2か年度）」を用いて、「利用可能な全部屋数に対する低利用な部屋数の割合」を評価項目とする。

分析内容	分析の考え方
同一用途分類内の1㎡あたり利用者数（利用度）	<ul style="list-style-type: none">1㎡あたり利用者数（利用度）が低いほど、施設を有効に活用できていないと考えられる。公共施設白書の「利用者数（年間利用者数データ※R3・4の2か年度）」を用いて、1㎡あたりの利用者数（利用度）を算出。利用度は用途に応じて特性が異なるため、「利用度を同一用途分類内で偏差値化したデータ（利用度偏差値）」を評価項目とする。

(施設・機能のあり方検討の確認)

- 他の方針等において施設課題が示されているものは、施設の方向性を検討する必要があります。

確認内容	確認の考え方
他の方針等	<ul style="list-style-type: none">ホール機能に着目した資産保有の最適化検討や行財政改革第3期プログラムにおいて、施設の課題が示されているものは、優先的に取り組むことが求められることから、施設・機能のあり方検討の必要性を評価項目とする。

分析・確認に基づく分類

- ・前頁の分析・確認の考え方にに基づき、以下の指標を設定します。
- ・指標1・2のいずれかに該当するものを**複合化等検討施設候補**とし、いずれにも該当しないものを**利用向上施設候補**と分類します。

指標1（利用状況に関するもの）

指標1-A

評価項目	基準
低利用な部屋の割合	利用可能な全部屋数に対し、 <u>低利用な部屋数の割合が50%以上</u>

指標1-B ※前頁の分析の考え方のおり、指標1-Aで評価できないものに適用

評価項目	基準
利用度偏差値	<u>利用度偏差値が4.5未満</u> ※ 偏差値4.5は全体の低位30%程度（3分の1程度）に位置することを踏まえ設定

指標2（施設・機能のあり方検討に関するもの）

評価項目	基準
施設・機能のあり方検討の必要性	ホール機能に着目した資産保有の最適化検討や行財政改革第3期プログラムにおいて <u>施設課題があるもの</u>

分類結果

前頁の指標に基づき、以下の表のとおり起点施設を分類します。

モデル地域	起点施設（38施設）	
	複合化等検討施設候補	利用改向上設候補
川崎・富士見・渡田		
平間・御幸・南河原	施設の複合化等の可能性について検討を行う施設	施設の使い方の工夫など、既存施設を活かしながら更なる利用向上の可能性について検討を行う施設
西高津・高津・東高津		
柿生・麻生・王禅寺中央		